

似島ホテルの里通信

vol.11



もくじ

平成28年度ニノシマホテルを育てる里人の会活動報告・・・	2～3
ホテル池2016 ニノシマホテルってな～に？・・・	4～5
似島を知ろうコラム～ニノシマの歴史・・・	6
似島を知ろうコラム～似島の家庭の味～・・・	6
ホテルで一句、観察会里人の声、似島に咲く花・・・	7
にのしまっぴ・・・	8

発行：平成29年3月31日
発行者：南区魅力発見委員会
(ニノシマホテルを育てる里人の会)

表紙写真 撮影者：向江菊枝 撮影場所：似島ホテル池の竹林
撮影日時：2016/5/30/21:41
バルブ撮影 カメラ Canon EOS6D レンズ：50mm F1.4
F1.4/145.00sec ISO:1600 ホワイトバランス：オート

〒734-8522 広島市南区皆実町一丁目5番44号
南区役所市民部地域起こし推進課
電話(082)250-8935 FAX(082)252-7179
E-mail mi-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

ニノシマボタルを育てる里人の会の活動（平成28年度）

4月24日(日) 田植え準備



田の荒起こし



れんげ見つけ♡



おニューの竹樋

5月15日(日) 田植え完了

苗しろ掻き難しい!!!



6月11日(土)~12日(日)

ヒメボタル観察会



何年ぶり? 月や火星観察

7月2日(土)~3日(日)

ヘイケボタル観察会



夜はカレーだよ



お昼寝中

ヘイケに会えて満足♡

7月17日(日) 麦の脱穀

似島臨海少年自然の家は「海の日オープンデー」😊



豪雨でビオトープが土砂だらけ!



似島名物オンパレード

春

夏

秋

冬

9月25日(日) 稲刈り

似島臨海少年自然の家「湯来・似島ふれあい祭」



こんにちは

10月16日(日) 収穫祭



次年度に向けて



バーベキューで慰労

11月19日(土) 麦の種まき



ヤーコン収穫

12月11日(日) 樹木伐採、忘年会



樹木と格闘、似島開拓団?!
いやいやホタルの里人



1月21日(土) 麦踏み、側溝整備

新年会 新米&湯来米、美味~!!!



今年の体験を教訓に、来年もがんばるぞ!!!

ヒメボタル観察会

平成 28 年 6 月 11 日(土)～12 日(日)

1 日目

9:30 広島港発 ⇒ 9:50 似島学園棧橋着

10:20 似島臨海少年自然の家着

「オリエンテーション」終了後、ホタル池と畑の

整備を行いながら、池の周りの植物や昆虫の観察を行いました。

13:30 整備の疲れで登山者はおらず、上田先生による自然観察のみ行いました。

観察を終え、夕方からは、入浴・夕食・夕涼みタイムを各自で取りました。

19:00 「ホタルのペンキようかい」でクイズや工作をしました。

20:00 「星座観察」では、数年ぶりに星座観察が実施でき、石原先生の立派な天体望遠鏡で普段見れない木星などを観察、参加者の多くが感動！

21:00 今回の会のメインイベントである「ホタル観察」です。参加者みんな沢山のホタルが見えることを期待し、ホタル池へ。数は多くはありませんでしたが、ヒメボタルも、ヘイケボタルも見ることができました。感激！ホタル観察ののち、研修棟で交流会を行い、就寝となりました。

天候はイマイチでしたが、種々のイベントを楽しむことができました。

ホタル池の周りは自然がいっぱい！

2 日目

7:30 起床、身辺整理をしたら食堂で朝食。

10:00 「海辺の生物観察」、子どもたちは海辺で大はしゃぎ！畑先生に生物の名前と特長を確認。海辺から戻ったら、お姉さんたちがバームクーヘンを製作中。最後に子どもたちも参加して、完成。似島在住の方の手づくりランチと一緒に皆でおいしくいただきました。

13:30 反省会と退所式では、アンケートの記入を行いました。殆どの方は、充実した観察会であったとお褒めの感想でした。

14:50 次回の観察会を期待し、参加者はフェリーで似島をあとにしました。

飛翔数
20匹

1 日目

14:00

広島港を出発

14:20 似島港(家下)着

- ・似島公民館でオリエンテーション
- ・ホタル池へ移動(状況確認)

〈先日の豪雨による土砂崩れで自然の家からホタル池までが通行不可に！〉

17:00 頃から 夕食づくり(カレー、から揚げ、サラダなど盛り沢山！！)の後、観察会での多くのヘイケボタルの乱舞を期待しながら、夕食を楽しみました。

19:30 夜間の観察会を行うため、皆で懐中電灯を片手にホタル池に向かいました。思ったよりも多くのヘイケボタルを鑑賞することができ、

幻想的な空間の中に、しばし身を置きました。

7:00 頃 寝床として利用した部屋を清掃し、卵やベーコンなどを使い、おいしい朝食をとりました。

2 日目

9:00 フェリーで似島としばしのお別れをしました。

ヘイケボタル観察会

平成 28 年 7 月 2 日(土)～3 日(日)

飛翔数
30匹

【タラレバニノシマボタル】

いつか機会があったら、インターネットでホタル池周辺の航空写真を見てみてください。木々の生い茂る中にぽっかりと穴が開いたように、ホタル池が顔を出しています。さて、その穴を開けたのは???

平成16年、ニノシマボタルを育てる里人の会が発足しました。ヘイケボタルの生息するホタル池の周りに茂った草木や竹を切るところから活動を始めたそうです。以来、くる年もくる年も草を刈り、木や竹の整理を続けています。もしもそれ以前の航空写真を見ることができたなら。もしもホタル池の整備をやめてしまったら。——ホタル池の上にも周りの森林と同じように木々が生い茂り、木々に隠されて空から見えなくなるかもしれません。そして、ヘイケボタルの生息しやすい環境は失われ、ニノシマヘイケボタルは、いなくなるかもしれません。里人の会は、ボランティアで整備に携わるメンバーの数が限られていて、楽しいけれど体力的にしんどい時もあります。でも、「あの時ホタル池の整備の活動を続けていればニノシマボタルは絶滅しなかったのに」という後悔をしないよう、細く長く頑張ったらいいな・・・と思って頑張っていて一緒に活動してくれる仲間が増えればなお楽しいだろうな!



ニノシマボタルを守りたい!

ニノシマボタルを育てる里人の会では

**ホタルを『持ち出さない。持ち込まない。』を合言葉に
ホタルが自然に命をつないでいけるよう取り組んでいます。**



→ヘイケボタル



←カブラハバチ

→ナナホシテントウ



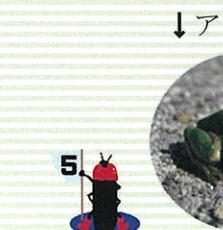
←コメツキムシ



←サカマキガイ
(ヘイケボタルの幼虫の餌です)



→ヒキガエル



↓アマガエル



赤色×黒色の虫さんたち



↑ルリカミキリ



↑オオキノコムシの仲間



↓ヒメカメノコテントウ



→ナナフシモドキ



↑ケラ



↓ハナムグリ



←タイコウチ



ホタル池周辺の生き物たち

ニノシマヘイケボタルとニノシマヒメボタル



成虫
サナギ
卵
幼虫

ヘイケボタルの幼虫は水中でサカマキガイなどを食べて成長します。近年水田が減るなどの環境の変化のため全国的に生息地が減ってきているようです。

似島のヘイケボタル
ニノシマヘイケボタル

似島のヒメボタル
ニノシマヒメボタル

=



成虫
サナギ
卵
幼虫

ヒメボタルは生涯陸上で過ごします。幼虫は陸生の貝(小さなカタツムリなど)を食べます。メスの後ろばねは退化しているので飛ばません。森がなくなるとヒメボタルは命をつないでいくことができません。

似島には日本の近代化の過程で戦争と軍事に呑み込まれた歴史があります。日清戦争から第二次世界大戦終了までの幾多もの戦争に関わった歴史と原爆投下による被爆者を収容した臨時野戦病院設置から現在に至るまでの遺骨発掘や慰霊の歴史を現地で学ぶことができます。

ここでは、少数ながら現存する歴史の遺構を巡るフィールドワークのモデルケースを紹介します。順路は「似島学園エリア」から出発し、暫時、南へ向かい「似島臨海少年自然の家エリア」まで歩き、その後、「似島中学校エリア」まで足を運べば原爆慰霊碑に辿り着きます。

まず、「似島学園エリア」には近代日本の最初の対外戦争となった日清戦争時に設置された陸軍検疫所の遺構として焼却炉のレンガ造り煙突（写真①）と貯水槽が遺されており、日露戦争時の検疫で使用された石組み栈橋（未消毒用と既消毒用の2本；写真②、③、④）が現存しています。また、同エリアには大正時代中期に広島兵器支廠から移設された陸軍弾薬庫の土塁（写真⑤）と歩哨所（写真⑥）も在ります。

更に海岸沿いに南進すると「似島臨海少年自然の家エリア」に到着します。ここは日露戦争時に新たな（第二）検疫所が設置され、太平洋戦争終結時まで各種の事変（戦争）において重要な役割を果たしましたが、原爆投下時には臨時野戦病院として一万人有余の被爆者が収容されました。70余年を経た現在、この地に残されている遺構は市中心部から運ばれた被爆者を揚陸した石組みの栈橋（写真⑦、⑧）と死没者の火葬に供した馬体焼却炉の一部（写真⑨）及び平和祈念式典で献水に供される水を今なお満々と湛える井戸が遺されています。

ここから更に南に下ると「似島中学校エリア」となります。この地は似島に運ばれて収容されたものの落命した数多くの方々が火葬、土葬された場所です。土葬された方の遺骨は終戦後、幾度も発掘され、平和記念公園内の供養塔に合祀され、平成16年にも推定85体の遺骨が発掘されました。被爆後70余年を経た現在もなお、原爆（戦争）の無惨さ、愚かさを訴える慰霊の地です。

なお、これらの遺構等に関しては、
似島公民館〔Tel 082-259-1100火曜日休館〕及び
似島臨海少年自然の家〔Tel 082-259-2766・2767月曜日休所〕
に照会するとより詳細な説明がいただけるでしょう。

写真 宮崎所蔵

写真① 現在の焼却炉のレンガ煙突（明治28年設置）

写真② 日露戦争時の未消毒栈橋（明治38年）

写真③ 日露戦争時の検疫所の遠景
（明治38年 中央に未消毒と既消毒の栈橋）

写真④ 現在の未消毒栈橋

写真⑤ 現在の弾薬庫の土塁

写真⑥ 現在の歩哨所の遺構

写真⑦ 第二検疫所（現似島臨海少年自然の家）の栈橋（大正中期）

写真⑧ 第二検疫所跡（現似島臨海少年自然の家）の栈橋（現在）

写真⑨ 馬体焼却炉の一部



▲写真①



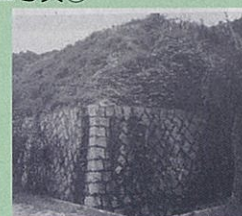
▲写真②



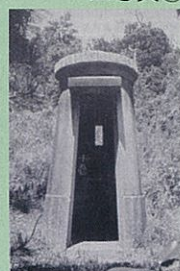
▲写真③



▲写真④



▲写真⑤



▲写真⑥



▲写真⑦



▲写真⑧



▲写真⑨

似島の家庭の味～メバル素麺～

『春を告げる魚』と、いわれるメバルは、早春が美味しい季節。煮付けや唐揚げ、焼いて酢漬けにしても美味です。煮付けにしたときは素麺を茹でて、ほぐした身をのせ煮汁をかけて頂く『メバル素麺』が島では好んで食されます。身の少ない小さなメバルでも、OKですよ。くれぐれも骨には気をつけて食べてくださいね。



材料（2人分）

- A {
- メバル 2尾
 - 水 100cc
 - 酒 100cc
 - しょうゆ 60cc（好みで加減）
- 素麺 1～2束（写真は1束で2人分）
錦糸卵 適宜
ねぎ 適宜

作り方

- 1 鍋でAをしっかり煮立たせ、メバルを入れる。
- 2 中火～強火で7～8分煮る。
- 3 別の鍋で素麺を茹でる。
- 4 素麺を器に盛り分け、錦糸卵、ねぎ、ほぐしたメバルの身をのせ、メバルの煮汁をかける。

乗船場所

①似島学園前桟橋

②似島桟橋

ホテル池へは、似島学園前で下船すると便利です。
※時刻については、変更となる場合がございますのでご注意ください。

似島汽船(株)時刻表 似島汽船Tel.090-3744-9039

似島 桟橋発	似島学園前 桟橋発	広島港 桟橋着	広島港 桟橋発	似島学園前 桟橋発	似島 桟橋着
6:00	→	6:20	6:30	→	6:50
7:00	→	7:20	7:30	→	7:50
8:00	→	8:20	8:30	→	8:50
9:00	→	9:20	9:30	9:50	10:05
10:15	→	10:35	11:00	→	11:20
11:30	→	11:50	12:30	→	12:50
13:00	13:20	13:40	14:00	→	14:20
14:30	14:50	15:10	15:30	→	15:50
16:00	→	16:20	16:30	→	16:50
17:00	→	17:20	17:30	→	17:50
18:00	→	18:20	18:30	→	18:50
19:00	→	19:20	19:30	→	19:50
20:00	→	20:20	20:30	→	20:50



下高山からの眺望

にのしまっふ

施設等

③似島臨海少年自然の家

④似島合同庁舎

(公民館、南区出張所)

⑤「地域おこし協力隊」活動拠点

⑤にて無料レンタサイクルがあります。

利用時間 10:00~16:00

※水曜日・祝日・年末年始はお休みです。

その他の活動で不在のことがあります。その際は、平日は出張所、土日は公民館へお越しください。

見どころ

⑥安芸小富士

⑦下高山

⑧慰霊碑前の花壇

⑨中心部の山路

日本のしま山100選
に選ばれた
安芸小富士



安芸小富士からの眺望



里人の会活動場所
ホテル池



会員募集中！ニノシマボタルを育てる里人の会

「持ち出さない、持ち込まない」を活動のモットーに、似島に生息するボタルの育つ環境整備をしています。会費は不要です。ただし、交通費等の実費は自己負担となります。

☆お申込み・お問い合わせ先

〒734-8522 広島市南区皆実町1-5-44

広島市南区役所市民部地域こし推進課「ニノシマボタルを育てる里人の会」事務局

電話(082)250-8935 FAX(082)252-7179 E-mail:mi-chiiki@city.hiroshima.lg.jp

